

令和6年度第2回堺市中区政策会議 会議録

日時：令和7年2月12日 19時00分から21時00分まで

場所：堺市 中区役所 4階 大会議室

出席者：【構成員】（敬称略）今西千晶、太田佳世、金澤正巳、澤本美奈子、竹井進、田重田勝一郎、仲氏昌平、谷村修、中辻さつ子、松居勇、森田裕之、梶原愛未、桂恵輔、小西響、堤朋子、真栄田愛花、山口睦季（以上17人出席）

【事務局】影山誠（中区長）、山田美佐（副区長）、宮井良平（中保健福祉総合センター所長）、名越賢治（深井駅周辺地域活性化推進室長）、阿部勝彦（自治推進課長）、長谷英俊（自治推進課長補佐）、大野かおり（市民課長）、中崎皓之（保険年金課長）、宮崎規行（生活援護課長）、河村正樹（地域福祉課長）、松尾敏之（子育て支援課長）、古谷禎人（中保健センター次長）、坂田順子（中保健センター主幹）、高市美月（中保健福祉総合センター統括支援担当主幹）、竹内秀和（企画総務課長）、重谷憲治（企画総務課長補佐）、川元慎平（企画総務課企画係長）、神楽所千花代（企画総務課副主査）

1 開会

○司会（川元） 会議開催に先立ちまして、配付資料の確認をお願いします。

議事次第の下に配付資料一覧を記載しています。

足りない資料がないか確認願います。

資料はお揃いでしょうか。

傍聴にお越しいただいております皆様へお知らせします。

傍聴にあたりましては、受付の際にご案内いたしました堺市懇話会の傍聴に関する要綱を遵守いただき、発言については固くご遠慮いただきますようお願いいたします。

また、あわせてアンケート用紙も添付しておりますので、中区政策会議の会議について、ご意見ご感想がありましたら、そちらへご記入願います。いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。

なお、この会議は公開で実施しております。事務局において、中区長X（旧）Twitterへの掲載等のため、写真撮影や録音を行っていますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

それでは、ただいまから令和6年度第2回、堺市中区政策会議を開催させていただきます。

私は本日の司会を務めさせていただきます中区役所企画総務課の川元と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第に従いまして、順に進めさせていただきます。

まず開会にあたりまして、中区長の影山よりご挨拶を申し上げます。

2 中区長挨拶

○中区長（影山） こんにちは。中区長の影山です。

本日は大変お忙しいなか、また遅い時間に、令和 6 年度第 2 回堺市中区政策会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日ごろから区政の推進にご理解とご協力を賜り、本当にありがとうございます。

今年度の第 1 回会議におきましては、持続可能な中区の活性化に向けた魅力発信強化について、をテーマに、構成員の皆様から意見やご提案をいただきました。本当にありがとうございます。いただきましたご意見をもとに、昨年の 11 月に行基のゆかりの地をめぐるウォーキングイベントの開催や、区長エクスでのハッシュタグの活用など、より効果的な魅力を発信に取り組んでいます。

本日のテーマは、「堺市中区地域計画の振り返りと改定の方向性について」です。

中区の地域計画は区政運営の大方針であり、令和 7 年度は最終年度でもあります。中区のめざす将来像に、「みんなが安心を感じ、魅力をつなぎ、活力を生む、成長の歩みを止めない中区」を掲げ、取り組みを進めております。

しかし、今後も、人口減少や高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響によるライフスタイルの変化、そして甚大化する自然災害に対する備えなど、目まぐるしく変化する社会情勢や予測できない危機事情に対して、柔軟かつ的確に対応していくことが求められています。

区民の皆様がこれからも安心して中区に暮らし続けることができ、将来に夢と希望を持てる地域であるよう、中区の魅力を最大限に生かし、積極的に挑戦し続けることのできる計画としていかなければならないと考えております。

計画の改定に当たりましては、この区政策会議におきまして、構成員の皆様との意見交換を重ねて、改定作業を進めてまいりたいと考えております。本日はその初回として、現計画の振り返りと改定の方向性について、構成員の皆様から率直なご意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞ皆さんよろしくお願い致します。

○司会（川元）ここからの会議進行につきましては、まず私の方から議題の設定理由について説明させていただきます、その後、森田座長に進行をお願いしたいと思います。

それでは今回の議題の設定理由についてご説明いたします。

今回の議題である堺市中区地域計画の振り返りと改定の方向性についてですが、まず資料 5 として皆様のもとに添付しております、現在の中区役所の行政計画である堺市中区地域計画につきましては、この堺市中区政策会議の前身である堺市中区区民評議会において、諮問および答申を委員の皆様からいただき、10 年先を見据えた中区の将来像や、2025 年までの 5 年間の区政運営の基本的な方向性を示し、中区で暮らし、働き、地域活動を担う皆様へ共有することで、現在直面している、また今後直面するであろうさまざまな地域課題の解決に共に取り組む持続可能な社会を実現することを目的に、令和 3 年 3 月に策定したものととなります。

その後、本計画に基づいてめざす将来像を実現するために、様々な状況の変化に対応し、区民ニーズを捉え、地域の方々や警察等の公共機関と連携してさまざまな取り組みを進めてまいりましたが、計画の終了年度である 2025 年度を来年度に迎えるにあたり、計画期間の途中段階ではありますが、一度現

時点での本計画の振り返りを行うとともに、今後の中区をより良い区としていくため、来年度に現在の計画を改定して定める計画の方向性について皆様にご意見をいただきたく思い、今回の議題とさせていただきます。議題の設定理由については以上となります。

では、森田座長、会議の進行をよろしくお願いします。

3 議題

○森田座長 皆さんこんばんは。

座長をさせていただいております森田でございます。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと存じます。次第 3 議題「堺市中区地域計画の振り返りと改定の方向性について」でございます。只今、事務局から議題の設定理由についてご説明いただきました。

引き続き、先日開催された“学生部会”について事務局より概要を説明していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局（川元） 学生部会の概要について説明させていただきます。

中区では、令和 3 年度第 2 回目の会議より、学生構成員の皆さんの会議案件への理解を深め、会議当日の意見提出の助けとするために、学生構成員だけで先行して意見交換等を行う学生部会を開催しております。

今回は 1 月 16 日に実施し、7 名中 3 名の学生構成員の皆様が参加してくださり、事務局から資料についての説明を受け、事務局との質疑応答や意見交換を行いました。

学生部会についての説明は以上となります。

○森田座長 次に、1 月 16 日に開催された学生部会について、参加していただいた学生構成員の一人である真栄田さんに意見交換した内容について報告していただこうと思います。

真栄田さん、お願いします。

○真栄田構成員 大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類の真栄田愛花と申します。先日開催されました学生部会において、学生で話し合った内容について報告させていただきます。資料 8 令和 6 年度第 2 回中区政策会議学生部会報告をお手元にご用意ください。

まず 1 つ目の質問、地域計画の達成状況や重点的に取り組む分野については、資料の上半分のように福祉、安全、歴史文化、交流に関する意見が出ました。福祉については、少子化高齢化の進行により、今後高齢者の割合が増加していくことが想定されること、そして設定されている KPI が達成されていないことから、重点的に取り組んでいくべきだという意見が出ました。

KPI となっているかかりつけ医の存在は、特に体調を崩しやすい、崩した時に重篤化しやすい高齢者にとって地域で健康に暮らしていくためには重要であるとの意見も出ました。また、私は大学で福祉に関する勉強をしているため、ある程度は知っていますが、無料や定額で受けられる診療事業のサービスについてよく知らないがために受けられていない人が一定数いると思いますので、既存の実施事業についても、サービスの対象者ではあるが、受けていない方に向けて情報発信をして行くことが必要だと考えます。

次に、安全については、日頃から地域でのつながりを充実させることや、防災を自分ごととして考える意識を育てることが大事だという意見があり、その実現のためには、わんわんパトロールなどの参加しやすい「ながら活動」への参加や、電柱などに〇〇震災時、震度●●などの写真を貼り、不安から防災への意識を高める取り組みが良いのではないかという意見も出ました。

3つ目、歴史文化については、せっかくサークル活動など文化活動で利用できる場所としてソフィア・堺という素晴らしい資源があるので、より区民の方が活用しやすくなるようにすれば、文化活動の輪が広がり、そこから生まれたつながりが災害時などにも生かされるのではという意見がありました。

最後に、交流については、自治会の方が思っている以上に、自治会未加入の人には自治会の活動がどんなものがわかっておらず、ただただ大変だというイメージだけが先行しているのではないかという意見や、参加してくれるまでは難しいが、参加してくれた場合は、清掃活動など何らかの役割を参加者に持つてもらうことで、各自が責任感を感じ、自治会への加入が促進されるのではないかという意見が出ました。Q1については以上になります。

Q2 については、地域計画に将来像実現を牽引する取り組みとして位置づけられている、（仮称）深井駅周辺地域活性化プロジェクトについて、資料6の水賀池公園整備事業に関する資料にも示されているように、次期計画の期間内に施設が完成する予定のため、その施設で各分野別要素、基本要素に関するさまざまな取り組みを行うことで、将来像が実現されればよいのではとなりました。

こんなことをしたら良いのではという例は次資料8の6つの■のとおりです。また、Q1において、高齢者にとってかかりつけ医の存在は重要だという意見が出ましたが、この指標だけが令和元年のものより下がってしまっているという結果もあり、指標として適切なのか、他にもっと良い指標がないのかといった意見もありました。学生部会の報告は以上になります。

○森田座長 はい。真栄田さん、報告ありがとうございました。

さて、構成員の皆様からそれぞれたくさんのご提案・ご意見をいただき、その内容を資料7にまとめていただきました。また、学生部会においても、ただ今報告がありましたように様々なご提案やご意見を出していただいたようです。それらの内容をご覧いただき、新たなご意見などございましたら、ご発言をお願いいたします。

クエスチョンが2つありますので、まずは主に Q1、地域計画の達成状況や、重点的に取り組む分野への意見等について、まずご意見をいただきたいと思います。ご発言のある方いらっしゃいますでしょうか。

先に学生から報告いただいた内容について、Q1 の方に書かれている、そういうふうなソフィア・堺に関する意見があったと思いますが、例えば具体的に活用できるような、なにかイメージというのは話している中でございましたでしょうか。

真栄田さんでも、真栄田さん以外の学生の方でも構わないですが、いかがでしょうか。

特に具体的にはなかったですか。

あんまりなかったですかね。そうしましたら、今西さんが結構いろいろ事前意見を書いてくださっていますの

で、ご発言お願いできますでしょうか。

○今西構成員 はい、ありがとうございます。健康分野の KPI が結構上昇していて、やはり皆さん、健康面はすごく気にされているのだなと感じました。

前期高齢者になる前、私達ぐらいの世代や、もっと若い方に向けてセルフチェックや、がん検診の必要性を周知できれば、皆さん元気で長生きして暮らすことができるのではないかと思います、ニーズの高さから進めやすいのではないかなと思いました。

あと、福祉については KPI の数値が少し下降していますが、これは学生さんも書いていらっしゃるんですけども、絶対に取り組む必要なところだと思います。

高齢者だけではなく、障害のある方、障害のない方も困ったときはどこかに相談できるということが、周知活動も含めて強化できたらというふうに考えました。以上です。

○森田座長 はい、どうもありがとうございました。今、ご意見いただいた内容について、何か付け加える点とかご質問とかご意見とかありましたらお聞きしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

以前から、周知活動についてはいろいろな課題が指摘されておりまして、現状の周知の方法ではちょっと足りないのではないかっていうことと、SNS 活用の話もありますけど、やったところでなかなか見てくれないし、増えないというところもあると思います。何か、具体的にメディアとか場所とか何か方法やアイデアなどございますか。

○今西構成員 いろんなところで周知はしていたとしても、自分には関係ないと思っていらっしゃる方はあまりそういうのを見ないと思うので、例えば血管年齢を測りますよとか、何かこう、多くの人が興味を持ちそうなイベントをして、集まった時に「あ、相談してもいいんだな」というふうに思ってもらえるような機会をたくさん作れたらいいなと思います。あと、どんな人が行ってもいいよっていうようなちょっとした相談ができる居場所を区役所や基幹型包括支援センター、障害者基幹相談支援センターなどが一緒になって作れたらいいなと思っています。

○森田座長 具体的に今はそういった場所はないということですかね。

○今西構成員 いろんなところで、例えば高齢者には保健センターとか包括支援センターでといったようにそれぞれの窓口でやってはいるんですけども、そこに来る方はそもそも興味がある決まった方になってしまうので、別のイベントを行ってそこで周知を行うとイベントに興味がある人が来られて、普段窓口では見ない人たちも来てくれるんじゃないかなと思いました。

○森田座長 なるほど。例えば今まで経験された中で、こんなイベントだと人がたくさん来られたみたいな印象を持たれているものってありますか。

○今西構成員 ヨーグルトや牛乳がもらえるなどおまけが何かつくるとすぐ人が集まるなと思いました。

○森田座長 そういうのも重要かもしれませんね。なるほど、わかりました。ありがとうございます。今のご意見についていかがでしょうか。特にはございませんか。じゃあ他の点についてでも結構ですけども、何かございましたら。じゃあ次は、松居さん、どうでしょう。ご意見を結構たくさん書いていただいていると思いますが。

○松居構成員 Q1 で最も気になったのが、安全の部分ですけども、前にもこの政策会議で取り上げたこともあったテーマだったと思うんですね。そこでまあ、構成員からのいろんな意見やアイデアを出して、進めているかなと思うんですけども、資料のアクションプランリストを見たときに、この安全の地域防犯とかに関する評価を見ると、なかなか事業としていい評価を取れているものが少ないんだなといった印象を受けました。

ですので、このあたりについて、あのときも結構知恵を絞ったつもりではあったので、じゃあどうすればいいのかということまですぐにパツと出てくるわけではないんですけども、何か考えるべきじゃないのかなと思いました。

○森田座長 いくつかあると思うんですけども、その中でどれかを具体に取り上げて議論するとしたらどれが一番いいですかね。評価 C になっている事業とかですかね。どうでしょう、防犯に関する情報発信事業だと、さっきの話とも近いですね。どうなんですかね。

防犯事業とか、安全に関することと、なにか実際にお住まいの方で、最近変わった点とか、もしくはなにか悪くなっている点とか、感じていらっしゃるようなことがあったら教えていただきたいです。いかがでしょうか。

○中辻構成員 すみません、防犯に関して、ちょっと最近気になっていることがあります。青色防犯パトロール活動について、中区でも、ずいぶんいろいろなところで活躍していただいていますけれども、最近、私の地域では高齢化で、乗る人も危険を伴うということで、少し縮小というような方向の話が出ているのは確かです。青パトがなくても大丈夫とかというような意見もあるんですけどね、私は、青パトは抑止力になっていると思うんですけども。

夜のパトロールはなしとか、夜は車じゃなくて歩きにして青パトに乗るのは朝と昼の 2 回にするとか、色々と縮小の方向になっています。担い手がやはり高齢化しています。特に女性は、自分の車の運転は大丈夫だけど、公共の青パトの運転は、事故した時に怖いとかいろいろな話が出てきていて、今どうしたものかなと考えているんですけども。地域も何かにつけて担い手不足が出てきているなあと感じています。以上です。

○森田座長 はい。ありがとうございます。担い手不足の問題はいろんなところに関係していて、非常に悩ましい問題ではあるのですが、なかなかすぐに解決は難しいですね。他になにか防犯関係とか安全関係とかでいかがでしょうか。

○今西構成員 中堺警察署ができて、おまわりさんが今パトロールに回っていますよっていうのがすごくマンションに来るようになって、安心できるなと思ったんですけど、目につくからかもしれないですがテレビとかで結構中区の事件が多い気がして。私もこの間、マンションのバイク置き場に置いていたバイクを盗まれたんで

すね。警察がバイクはすぐ見つけてくれました。でも犯人はまだ見つかっていないです。やっぱり駅前だからか犯罪が多いような気もするし、今後人が増えてくると、さらに心配だなとも思います。パトロールは強化してくれている、おっしゃったような青パトもあつた方がいいなと思うんですけど、乗る側からすると、やっぱり高齢化が進んで大変なんだなと思います。

わんわんパトロールなどワンちゃんのお散歩をしている人がいて人通りがあると、夜でも安心感があり、犯罪も減ると思います。

○中辻構成員 防犯カメラもたくさん地域に設置されていますのでね。それも抑止効果があると思います。

○森田座長 防犯カメラは最近急速に増えてきているイメージですか。それとも昔から。

○中辻構成員 そうですね。金澤構成員、防犯カメラについては最近だいぶ増えてきていますよね。

○森田座長 なにかこう増えてきて変わった感じとか実感はありますか。

○金澤構成員 防犯灯やら防犯カメラとかが多くなったこと自体ね、非常に安全に繋がっているんじゃないかなと思います。中堺警察ができたことによって、先ほど、今西さんが言われたように、警察はかなり頻繁に回ってもらっているように思いました。

学生さんがまとめてくれたように、地域でもやはり担い手不足の問題を抱えています。減少してきている町会員さんを増やしたい、どうしたら増やすことができるかな。例えばこういうことしたらいいんじゃないかとかね、何か若い学生さんからの目線でいろんな意見が出てこないかなと思うんです。

東深井校区でも、東深井小学校ができるまではね、各町ごとに数百人ぐらいしか人口はいなかったんですけれども、ここ 50 年ほどの間に人も増えて、大きく様変わりして、その当時は町会に加入したいという人がたくさんいました。いつからか、この 10 年か 20 年の間に加入する人が減ってきて、理由を聞けばこども会の役をしたくない、こどもが高学年になってきて役をしないといけなくなってきたら、もうこども会を退会するというようなことが多いみたいです。

ただ、その人にも地域のこどもたちはみんな地域の人にも育ててもらっているということをやっぱり認識してもらいたいと思うんですけれども、それをどうその親御さんたちに、また地域の町会に入っていない人達にどういうふうに伝えていくかっていうことも大事なと思うんですよね。

他にも去年 12 月にこの地域で、こどもが誘拐されかけて、短時間で解決はしましたが、その犯人の人が、朝からお酒を飲んでいてこどもにちよっかいをかけたのかな。朝 8 時過ぎという時間で、周りが見ていたら親子喧嘩をしているように見えたという人もいて、いろんな人が通勤時間でこどもも小学校に行く時間帯ですから、何かおかしいなっていうふうに大人の目線で見えてなかったように思うんですよね。

ただ、5 人で通学していた 3 人のこどもがおかしいなと思ったから学校に連絡して、あと 2 人はついていったと言ったかな。その後で見守り隊のおじさんに話をして警察に連絡してすぐ解決したということがあったんですけれども。

今言っているように、やはりこどもは一人で育つわけじゃない、あらゆる面で、例えば防犯灯にしろ、防犯カメラにしろ、見守り隊にしろ、いろんな人が安全を守るためにね、協力してくれているわけだから。もちろん、熱心な人もおれば、そうでもない人もいるけども。もっとこの地域をよくするために何を起爆剤にすべきかな。町会員を増やすために、何をしたらいいかなと。市からも町会員を増やそうとかいうような話は常にありますけど、なかなか具体的な案が出てこないというのがあります。

○森田座長 なるほど。それはなかなか難しい問題だと思いますが、学生から何かアイディアありますか。どうでしょう。若い意見をお聞きになりたいというお話だと思うんですけど、なにか例えばこんなことしたらどうかとか。イベントじゃなかなか難しいんでしょうかね。町会とかそういうところに入っていくきっかけというか、入る動機になるようなことって何か考えつくことはありますか。どうでしょう。

○金澤構成員 もう一つ、災害に関して、今まで東深井校区での避難訓練は朝 9 時頃から行われていて、各町で役員と人数を決めて実施してきました。いつも同じ人しか参加しないので、今回は参加していない人にもできるだけ参加してもらわないといけないと思って、今年の訓練の日程はまだ決まってないんですけど、町会員でない人にもリーフレットを配布して参加を呼びかけています。

避難所での対応や訓練についても今までも行ってきており、有事の際に、決めたルールどおりにいかないとしても、混乱しないようにするために、訓練である程度慣れた人が当番を決め、東深井校区や各町で一応は体制を作れていると思いますが、町会員でない人が参加していないため、実際に従事することになった場合、うまく連携を取れるのかということが課題の一つだと思います。

南海トラフ地震が発生した際には、JR 阪和線を目安に西の海側から避難してくる人々がこの地域にも避難してくる。そのときに、避難所生活が混雑し、パニック状態になってしまうんじゃないかなと思います。訓練を始めた当初は毎年 450 人ほどが参加しており、消防署に協力してもらって炊き出しの訓練などもしていましたが、人数が多いと大変な作業になるので、そこから各町の代表者だけを集めて、今は約 100 人前後が参加しています。ただ、できるだけ多くの人に参加してもらいたいとも考えています。

また後で話が出るかわかりませんが、この深井駅の近くの水賀池公園の工事が始まっていますので、これから 3 年後のオープンに向けてその何年か先には宮園団地の方の建て替えもされますので、またこの周辺も、大きく、やっぱり様変わりしていくんじゃないかなと思います。

私は、堺市全体で何が魅力があるかっていうことをいろんな人に聞いたことがあるんですけどね。仁徳天皇陵という歴史的な世界遺産があるんですけどもそれ目的で来る人がどれだけいるのかと思う。

世界遺産の目の前なのに JR 百舌鳥駅が無人駅になっている（東口のみ）。駅だけの問題じゃないですが、そういうところをやっぱり民間、行政一緒になって解決しないといけないと思います。

堺市全体で言ったら、戦国時代の三武将のゆかりの場所もあるけども、それを観光コースに入れたとしてもなかなかその目の前のところにバスも止められない、駐車場が少ないとかいろいろな問題がある現在の状況の中では難しい。今後五年先、十年先、堺市も、地域もやっぱり何かを変えていかないとけない状況だと思います。我々が考えるより、いろんな若い方々が集まって地域の問題、未来を考えてもらえればと思っています。

○森田座長 幅広い内容のお話だったので、なかなか焦点を当てるのが難しいかもしれませんが、若い人の立場で考えると、それまで地域の方とつながりがなかった状況で、突然地域に入っていこうかなとはなかなかならないのは当然だと思います。先ほど防災訓練のお話がありましたが、防災じゃなくてもいいんですけど、例えばこういうきっかけがあったら地域の今まで知らなかった人と繋がる可能性があるんじゃないかみたいな意見はないですか。どうでしょう。

○真栄田構成員 難しいところだと思うんですけど、きっかけとして、学生部会でも盛り上がった話題がありまして、そのキーワードの一つがお祭りっていうものになります。特に中区は大阪公立大学があるので、もともとここに住んでいるのではなく、どこかに住んでいて、こっちに移り住んできた、つまり、ずっとここにはいない地域とのつながりが薄い若者が比較的多い地域なのかなと思っています。そういう人たちが、地域に出てくるきっかけとして、我々学生がイメージできるのは、地域での楽しいイベント、いわゆるお祭りとかだと思います。賑やかな声とか、美味しい匂いとか、そういうのに釣られてちょっと行ってみようかなっていう気持ちでふらっと行く学生も結構いるんじゃないかなと思います。

例えばそのお祭りのところにいろんな屋台がある中で、一つのブースで、例えばそんな大々的なものでなくもよいので自治会の方が自治会について知れるブースを運営している、もしくは自治会の方が立っているだけでもいいのかなと思っています。要は自治会の方がいるんだということが分かればいい。祭りに行った時に、その人とたまたましゃべるような機会があったとして、そこで自治会でとても困っていることがあるけど、助けてくれる相手がいないという状況が少しでも伝われば、何か自分にできることがあるのではと考えるきっかけになるかなと思います。知らないところに飛び込むのは勇気がいることなのでいきなりは難しいですけど、そういう会話を少しずつ積み重ねていくことで、地域の担い手として何かできることがあるのならやろうというふうになるのかなと思います。

それが、防災の話にもつながるんですが、南海トラフ地震とかすごく話題になってますので、一人暮らしの学生は不安な気持ちを抱えている方は多いと思いますので、今が地域とつながるチャンスなのかなというふうに私は考えています。なので一つのきっかけとして、イベントの場所で地域の活動を知れるような何かがあればいいかなと思います。以上です。

○森田座長 なるほど、ありがとうございます。ちなみに南海トラフ地震で津波が来た時に、例えば中百舌鳥キャンパスにいた場合、どういうところに逃げないといけないか知っていますか。

○真栄田構成員 私は中百舌鳥キャンパスで学んでいて、避難訓練を何回かやったことがあるんですけど、広場みたいなところに集まった記憶があるので、確かその辺りに避難するべきなのかなという解釈です。

○森田座長 隣の堤さんも聞いていましたけど、ご存じですか。

○堤構成員 災害によって避難場所が変わると思います。まず大阪公立大学のキャンパス自体が、そもそも大規模な震災、火災が発生した時の広域避難所に指定されています。そこまで大規模ではない場合の避難場所に関しては、大学から一番近い中百舌鳥小学校に避難するというふうに認識しています。

大学も備蓄品などを準備してあるので、大学の建物自体がそこまで大きな被害を受けていないのであれば、そこに留まることも可能というように認識しています。

○森田座長 よくご存じですね。津波が来たらどこまで逃げないといけないかは聞いたことがありますか。

○堤構成員 津波の場合、先ほどおっしゃっておられた JR 阪和線よりも東側であれば、そこまで被害は出ないというふうに聞いていますので、津波の警報が出た時に大学にいれば、そこから動かなくても大丈夫かなというふうに認識しています。

○森田座長 そうですね。なるほど。結構みんなしっかり防災意識を持っていますね。ありがとうございます。他に、学生さんの中で、はい、どうぞ。

○山口構成員 はい、山口と申します。学生部会には参加していないので、ちょっと真栄田さんとは角度が違う話になってしまうんですけども、地域の方とのつながりとか、自治会という言葉自体がそもそも私たちの世代にあまり馴染みがないというか、正直言ってすごくハードルが高いです。

一人暮らしで自分の生活を立てていくのに精一杯の中で、地域のことに目を向ける余裕もないし、経済的にもそんなに力がない中で、どこまで自分が役割を担えるのかという不安があって参加しない人が学生の中でももしかしたら多いのかなというふうに私は感じています。

だからこそ、この防犯の、例えばわんわんパトロールでもそうですが、ちょっと自分が防犯を意識しながら歩くことだけでも地域の役に立てるんだよってということのように、自分がちょっと頑張るだけでできることがある、自分の少しの力が地域のためになるってところがもっと広まれば、自治会とか地域のつながりってところに感じるハードルは低くなるのかなというふうにお話を聞いていて思いました。

○森田座長 なるほど、ありがとうございます。ちなみに、もしじゃあ一緒にパトロールしてくれると嬉しいなって言われたら、参加してみようかなって思いますか。

○山口構成員 そうですね。自分の周りの話にはなってしまうんですけど、大学の授業が終わって、夜に運動したいのに怖くて歩けないってことを何回か友達と話したことがあって。なので、地域の方と一緒にどこが怖いよって話も踏まえながら歩く、運動できるっていうことはちょっと魅力的に感じますね。

○森田座長 なるほど、運動ね、そういう観点もあるかもしれませんね。みんなで夜に防犯を兼ねたウォーキングツアーみたいな。他に、学生さんのご意見いかがですか。どうぞ。

○堤構成員 私がこの大学の近くに一人暮らしで引っ越してくる前に住んでいた地域は、家族で自治会に入らせていただいていたので、防災訓練を行ったり、お祭りでお手伝いさせていただいたりしていたんですけど、その時は、自治会に入っていたがゆえに、訓練の情報とか、地域にこういうイベント、施設、お祭りがあるよ

っていう情報が自然と入ってくる状態だったからこそ、自治会に加入しようかなというふうな意識になっていました。

前の地域ではよく目にしていたんですけども、こちらに越してきた時に、自然と目につく機会が正直あまりなくて、普段利用しているお店、スーパー、大学など、行動圏に限られるがゆえに、目にする機会が減っています。

ですので、大学生が良く行く場所に設置したり、公共施設だけじゃなくて、薬局とか、スーパーであったりとか、否が応でも日常生活を送っていたら目にするような場所に何かアクションが起これたら、自然と興味を持って、訓練にも参加したいなと思います。

生活リズムが変わったという点では、土日に来るまる一日予定を空けるのが大変っていうことであったり、夜間や夕方以降しか参加できないようなこともあって、日中開催だと時間が合わなかったりで参加のハードルが高くなっているのかなと感じました。以上です。

○森田座長 例えば、堤さんが行くスーパーに、そういうポスターみたいなものがあったりして目にとると、違う反応をすることもありうるかなって感じですか。

○堤構成員 そうですね。私が普段行っているスーパーでは地域のイベントの宣伝を掲示していることがあって、そこで目にしたイベントに行ってみたことはあります。

○森田座長 そうですか。なるほど、大学生が集まる場所がどこなのかすぐには具体的に出てこないですけど、学生さんに限らず、若い人が集まるところとかだとやっぱりコンビニとかですかね。コンビニは難しいのかな。フライヤーを入れるのもアリですけど、まあそれもコストがかかりますし、と言って SNS と言いましても、なかなか見ないでしょうってなると、なかなか難しいですね。

ちなみにさっきお祭りの話があったんですけど、松居さんはお祭り絡みで、さっき真栄田さんが言っていた自治会と若い人をつなげる取り組みみたいなものって、これまでご経験ありますか。

○松居構成員 いくつか思いつくことがあるんですけども。大学のすぐ近くの土師校区では、来月も行うんですけども、地域で行われる防災訓練に、学生が何人か参加予定にしています。場合によっては、そういったテーマに基づく企画に学生が携わって一緒に応援する形もありますし、仲氏さんがやっていたりしゃる地域のイベントへの協力とか、中区でもいくつかあるかなというふうに思っています。

事前意見のところにも少し書いたんですけども、水賀池公園の整備について、何か新しい象徴的なものができる期待感みたいなものは、皆様のご意見を見ても感じるころなので、何かあらかじめ学生も参画できて面白いかなと思いますというのが一つです。

私も立場上、学生、若者がどういふにこういった取り組みに参加してくるのかというのを考えるところが大事ななと思っているんですけども、特に本学の学生で言うと、もともと地元の人間っていう方のほうが数少ないので、それからすると、どういふに地域の取り組みに参加するきっかけを作っていくのかというところは、常に意識しています。

先ほどのアクションプランリストでも、安全の分野で青パトについてですね、学生ボランティアも協力してい

て、良い評価もいただけているのかなというところであったり、令和 4 年度のアクションプランリストを見ても、環境の分野で、学生ボランティア活動支援事業となっているんですけども、これも学生が地域の環境活動を推し進めるために協力しますっていう取り組みだったんですけども、どちらもそんなに大人数が携わっているというわけではないんですけど、ちょっとずつでもこういうふうになにに参加する機会を作っていくことが大事なかなと思っています。

そんな中で、交流の分野で、高校生の子たちが参画するなか学コミュニティ事業、これもなかなか苦戦しているのかなと思う中で、記載を見ると「若者の視点で、中区政府について効果的な啓発方法や事業の検討を行う」というのはまさにこの政策会議の学生部会のやっていることじゃないかなと思ったので、一緒に取り組めることがあるといいのかなと。そういうところから、地域で暮らす高校生と大学生との交流が生まれてくる可能性もあるかなと思いますし、そこから、じゃあ、せっかくだし中区でなにか新しいことを一緒に作っていかないかという、さっきのお祭りのような話に展開していくといったことを、今後重点的に取り組めたら面白いかなと思っています。

○森田座長 なるほど、ありがとうございます。さっき仲氏さんの話が出ました。よかったら何か、それについてお話されますか。

○仲氏構成員 はい、ありがとうございます。松居さんから少しお話いただいたんですけど、宮園校区の方で 50 年近く文化祭というのを地域でされていたんです。ただ、地域の担い手が高齢化を迎えて、マンパワーが不足している中で、文化祭を維持していくのが難しいというところで。私自身が会社をやっているんですけど、いろんな事業所の方々が集まって、マンパワーを含めて知恵を出しながら、何かできることないかなということで、任意団体でつむぎの会というのをしまして、中区役所企画総務課の当時の課長の方が、宮園校区の課題と、僕らが求めているものがマッチングするんじゃないかということで、ちょうど 6 年、7 年ぐらいに出会いの場所を作ってくれたんです。そこで実際にこどもから高齢者、障害のある方もない方も誰でも参加できるイベントということで、去年も 11 月 3 日に食フェスをさせていただきました。

その 11 月 3 日に向けて、地域の民生委員の方であったり、自治会の方であったりとか、いろんなコアメンバーも含めて、定期的に月 1 回会議をしながら、まずは顔の見える関係性を作りたいなというところで、いろんな方と話をし、伴走して準備を進めながら、当日イベントを迎えました。

そういうのを繰り返すことで、地域の中で顔の見える関係が自然にできるというところがありまして。学生さんがおっしゃった無料や低額で受けられる診療事業や防災、わんわんパトロールなど、まずは知ってもらうということが一番大事なかなと思うんですけど、堅苦しい形になると人はなかなか集まりづらいので、まずは楽しいことをしながらで、そこで自然な形でいろんな啓発をして、知ってもらうということが大事なかなと思います。

イベントの中で、太田さんにも関わってもらいながら、中区のこども食堂の事務局の方々も関わっていたいてこども食堂の啓発をしたり、金澤会長から毎年野菜をいただいて、その販売をこどもにしてもらって、売り上げをこども食堂に無償で寄付したりもしています。

それ以外にも、近くに堺平成病院があるので無料の相談コーナーやいろんなブースができて、キッチンカーも 10 台ほど並んで、区長にも最初のご挨拶をしていただいて、当日は 3000 人近くの方が来られたんです。

こういうように、人と関わりながら自然な形で知ってもらうことが、学生さんにも言われたみたいに、すごく大

事だと思っています。松居さんもおっしゃりたいに、今後、水賀池の開発についても、そこを本当に地域と一緒に作り上げていくためには、実際に携わる第三セクターの方とも話をできる場所がいるのではないかなと思っています。本来であれば、そういった公園整備をされる方も、この場所にいてくれたうえで、いろんな地域でずっと活動されている方々の率直の意見を聞きながら、お話もできるでしょうし、そういった場を設けてもらうのがベストかなってというのは、僕自身も感じているところなんです。

だから、知ってもらっていても、意図的に知ってもらうじゃなくて、あくまでも自然な流れで知ってもらってことが一番大事だと、僕も学生さんの話を聞いていて思うところです。

○森田座長 水賀池公園整備の関係者は、この場ではちょっと難しいと思いますので、別の場になるかもしれませんが、そういう接触する機会を作っていただけるといいのかなという気がしますね。

はい、他になにかいかがですか。太田さんお願いします。

○太田構成員 すみません、太田です。私は仕事で堺市の子育てひろばをやっているんですけど、そこは未就学児童を持つ保護者さんが来られる場なので、こどもが小学生になるとそこは来られなくなるんですね。そこに来ている若い世代の方が、堺に入って来られて、数年経ってすぐまたよそに出て行かれるっていう方が意外と多くて、堺市から出られるサイクルがすごく早いです。私はもともと堺の出身じゃないので、もっと地元の方が多いいのかなっていうイメージがあったんですけど、意外と出入りがすごく激しかったりします。でもやっぱり一定数はおうちを買って、ずっと中区に住みますっていう方もいらっしゃいます。

それで、ひろばに来る子育て中の若い世代の方でも意外とワンちゃんを飼われているおうちがたくさんいらっしゃるんです。私は子育てしながら、さらにワンちゃんのお世話をするなんてすごいと思うんですけど、例えばこどもが小さい間、自分がワンちゃんの散歩をしていることで、地域の役に立っているっていう意識が、その世代から芽生えやすかったりするのかなと思います。

また、やっぱり今の子育て世代の保護者の人はすごく忙しくて、一年、二年経ったらほぼ確実にもうお仕事に戻られてガンガン働かれる方が多いです。そんな中、例えば小学校とかに上がった時に、こども会とか自治会っていう話をいただいても、もう気持ち的にそこまでの余裕ないので無理ですっていう風になっちゃうんです。

なので、もうちょっとこどもが低年齢のうちから、子育てひろばとかで、例えば自治会加入のお知らせを貼るとか、わんわんパトロールも、若い世代の人に参加してもらえるような取組みに変えていただけたらどうかというのを思っています。

あと仲氏さんが先ほどおっしゃってくださったこども食堂なんですけど、うちも今みんなの食堂という形でやっていますけど、国からたくさん食材をいただいたりとか、いろんな助成金があったりするときに、地域の身近なところで相談できる地域の相談窓口事業っていうふうにならず申請しているんですね。それはこどもがいるいないとか、年代とかに関わらず、食材があるからいつでもちょっと散歩がてら来てもらえたことをきっかけに、私達ぐらいの年だと更年期どうしたらとか、もうちょっと年配の人だと、いい整骨院がないとか、なんかそういう話が盛り上がったりしています。他にも子育ての悩みがあるということでお話を聞かせてもらったら、実はおじいちゃんがちょっと認知症で困っているっていう話になって、近くの介護施設につないでみたりしたこともあります。今までボランティア活動や PTA などいろんなことをやってきたんですけど、実際やっていて、子育て支援の場というかこども食堂という形がいろんなサービスの窓口として、高齢者にも子育て世代にも、もの

すぐ情報発信するのに使いやすいという実感があります。

子育てひろばも子ども食堂も、定期的に防災訓練とかしていて、その時に自治会に入っていますか。と聞いても、9割ほどの方は入られてないので、まあそういうところで自治会の意識付けができたらと思いました。

他には、先ほどの話で中区はすごいなと思ったのが、公立大学で防災訓練もしているんですね。個人的な話になるんですけど、うちの娘がちょうど大学生でちょっと遠くの大学に通っています。自治会費が大学の諸経費の中に入っていて、それでその自治会費も払っているんですけど、そんな話聞いたことないなと。防災訓練をしたとか、自分の大学の地域の自治会がっていうのも、学校も発信してないし、中区とか公立大学って素晴らしいなあと、今日お話を聞いていて感じました。

すみません、少し話がそれたんですけど、そんな感じで水賀池公園の中でそういう地域の集い場、拠点みたいな場でもうちょっとハードルを下げて情報交換をできるサービスを作っていたらなっているのと思っています。

○森田座長 ありがとうございます。子ども食堂とかもきっかけの一つと言いますか、そういうところを中心に、情報を得る人もいらっしゃるの、今もやってらっしゃるかもしれませんが、もう少し重点的にやるのも一つなのかなと思いました。じゃあ、次の方をお願いします。

○小西構成員 小西です。私の地元の話になるんですけど、小学校の時に学期毎に1回ずつ、親がこどもの通学路の見守りをする日を一日設けてくださいと言われてて、そこで見守り隊の方と話す機会があって、地域の活動を知れたり、つながりを感じられたりしたことがあるんです。

小学校側から働きかけていただいたので、地域がしていることが分かった側面があったので、地域活動を自治会と一旦切り離すわけではないですけど、自治会からではなく、間接的に小学校にお願いして働きかけたら、もしかしたら地域の活動に親子世代が興味を持ちやすいのかなと感じました。以上です。

○森田座長 はい、ありがとうございます。小学校を通してということですね。いろいろ意見が出ましたが、金澤さん、いかがですか。今までのご意見をお聞きして。

○金澤構成員 先ほど小西さんも言われた小学校から、もしくは中学校もありかなと思うんですけど、そういういろんなところでの活動の周知もいいんじゃないかなと思います。また、以前、この会議で松居さんと話していた件で、大学でも文化祭とかいろいろありますよね。地域の人も知らない人がほとんどですので、そういうイベントも地域の人に案内してもらったらいいと思うんです。案内をどこに持っていかってというのは、これから具体的に詰めさせてもらったらいいと思うんですけど、反面、先ほどの祭りの話で出たように、我々から大学の方に地域の祭りの案内をかけさせてもらうというような。そういう形で、また連絡とりあってやりましようかっていう話でそのままになってしまして。

○森田座長 それは、進めないといけないですね。

○金澤構成員 はい。そんな話を何年か前に、ここでさせてもらったと思うんですけど、この機会にまた担当も決めて進めて行く機会を設けてもいいんじゃないかなと思います。

○森田座長 はい、いろいろ意見がでましたが、ちょっと視点を変えて。田重田さん、さっきのこども連れ去りとはちょっと違うんですけど、子育ての虐待の通報の件をご意見いただいているんですけど、それって数字を見たということもあると思うんですけど、具体的に何か感じてらっしゃる、多いかなと実感されたことがあるんですか。

○田重田構成員 中区の虐待の通報件数が多いことは、区の職員の方に教えていただいていたんですけども、今回、意見を書くのがすごく難しいと感じました。話がそれるかもしれないですけど、KPI が例えば子育て分野だったら「子育てしやすいまちだと思いますか」という質問に対する数値しか出てなくてですね。何をもって子育てしやすいまちだと思ったのかという、どういう取り組みをして、どういうものが増えたから、子育てしやすい場所だと思ったのかという理由の部分がわからなかったです。ですので、どこに重点的に取り組みばいいのかを検討するのも難しく、僕が、普段関わっている教育子育ての分野で、意見を書かせてもらったところなんです。

例えば防犯だと、なにかの取り組みをして、逮捕者数が増えたとか、犯罪の認知件数が減ったとか、そういう数値の変化が実際あって安全だと思うようになったということなのか、ただただイメージ的に良くなっただけなのかをどう捉えたらいいのかなってというのが難しかったです。

○森田座長 わかりました。ご意見をいただいたので、私も役所の人にお聞きしてちょっと調べてもらったんですけど、どういうわけかは確定できないんですけども、ここ直近で、通報の件数が増えているようで、しかしながら、例えば同じ人が何回も通報されているようなケースでも、延べカウントしている数値らしいので、実際に何人がというのはなかなか難しいようです。

通報件数が多い理由として、他の区と比べてちゃんとみんなが見てるから通報件数が多いってということも考えられるので、一概に数字だけを見て、良いの悪いのと議論できないとは思っているので、日々、暮らしている中で、虐待について感じていらっしゃる可能性があるかなと思って聞いてみたところです。

なにか他にそういうことについて感じられたことある方はいらっしゃいますか。

○今西構成員 医療も障害も高齢も、虐待について皆さんすごく勉強しなさいと言われているので、何か気づくことがあったら通報しようという意識付けができていうことだと思います。虐待があるかどうかを決めるのは行政側なので、ケアマネさんも障害の調査員もみんな「あれ、おかしいんじゃないかな」と気づいたら一旦通報していますので、いいことなんじゃないかなと。

○森田座長 なるほど、ちなみに、中区だけが増えるということはあるえそうな感じですか。例えば他の区もみんな一緒にそういう意識が高まっているんだったら、全区数値が高まると思うんですけど、数字を見ると、どうも中区だけが増えている状態でした。中区だけが通報意識が高まるような何か取り組みとかイベントをし

ているんだったら、おっしゃったことが正しいのかなという気がするんですけど、なにか感じられるようなことはありますか。

○今西構成員 高齢者の虐待通報に関することだと、例えばケアマネさんからの通報ケースがすごく増えているっていうのがあったんですけど、それは、いろんな事業所が関わっていても、一旦ケアマネさんに集約するようになっているのが理由なのかなという話は出ていました。

○森田座長 なるほど、わかりました。ありがとうございます。なかなか原因を探ろうと思うのが難しい点なので、簡単にはわからないんですけど、おっしゃられたように、必ずしも悪いことではなくて、ちゃんと通報しようとする意識が高まっているから件数が上がっていると考えれば、別に悪いことではないと言いますか、そのあたり、ちょっと注視する必要があるのかなという気がしました。

時間もだいぶ進んでいきましたので、既に入っている部分もあるとは思うんですけども Q2 も含めてご発言等いかがでしょうか。澤本さんはいかがでしょう。

○澤本構成員 先ほどの話の続きになりますが、青少年指導員として、警察に研修に来ていただいたり、お話を聞く機会が多いんですけども、元々西堺警察署しかなくて中区と西区の両方を管轄していたときに、西区の方が犯罪が多いっていうことで聞いていたんです。それで中堺警察署ができて管轄が中区のみになったので、ちょっとホッとしていたんですけども、実は中区の方が犯罪件数が多かったという事実がわかって、警察の方とお話をしても、大阪市内でお勤めされていた警察の方が中区に来て、「なかなか大変ですね」というようなお話を聞く機会が多いんです。今はちょっと落ち着いてきているような状況ではあります。

子どもが小さい間は、お母さんたちはいろんなところ、例えば子育てサークルに出かけて、一生懸命子育てされるんですけども、小学校へ行きだしたらちょっと油断して手放してしまう方もいるようで、今、大変な状態の小学校が何校もあるようなんです。それで、そのまま中学校へ上がってもやはり急には変わらなくて、中学校でも大変なところが何校かあるような状況が現実にあります。

先ほどの虐待の話も、何かあったら通報が義務ということになったので、件数が増えていることもあるとは思いますが、実際にもそういうことが増えているのではないかと考えています。声掛けとかもいろいろしてはいるんですけども、根本的には収まってはいない状態です。そういう問題もだんだん低年齢化してきているところがあるので、やはり小学校の見守りもきっちりしていきたいなと、今、青少年指導員の中では声を掛け合っているところです。

○森田座長 なるほど。やっぱりそういう意味でも、さっき地域を含めた見守りの目と言いますか、そういうところが重要なようですね。竹井さんはいかがでしょう。

○竹井構成員 Q2 について、駅周辺で非常にタバコのポイ捨てが多くてですね、よくお客さんから苦情をいただいています。ですので、路上喫煙の禁止区域の指定をぜひしていただきたいと思います。中百舌鳥駅

前は指定区域となっていて、喫煙所がちゃんとできてやっぱりポイ捨てが減少しているんですね。

それは設置や後々のメンテナンスも含めて JT さんの協力もあってのことなんですけど、市の協力がないとできないことなので、街の景観もすごく良くなりますし、今年ちょうど大阪万博を控えていて、それで大阪市内全域が路上喫煙禁止になるんですよ。それもあって堺市でもぜひ条例を制定していただきたいなと思っています。

○森田座長 なるほど、ありがとうございます。当然のご指摘かなと思います。それは最近特に増えているとかではなくて昔からですか。

○竹井構成員 前々からですね、タバコもそうですし、アルコールの空き缶とかも。タバコを吸うからお酒を飲んだりする人もいてせっかくきれいなお花を、育てていただいているのに、あまり景観的によろしくないです。

○森田座長 ポイ捨ての一つぐらいと思うかもしれませんが、それをきっかけに一つ捨てられていると、みんな捨てるようになるっていうのは心理学的にもよく言われていることなので、そういうことは重要なポイントですよ。

○澤本構成員 竹井さんの今のお話や事前意見を読んで、深井駅のポイ捨てのことについてなんですけど、本当に多いんです。私はあそこのフラワーポットのお世話をさせていただいているんですけども、そこらに落ちているだけでなく、ポットの中の隅の方にぎゅっと押し込んであるのがいくつもあるんです。お花のお世話をしていても、必ずいつもいくつかあって「いつもここは灰皿じゃないのに」ってみんなで言いながらお世話しているんですね。ですから、これはやはりマナーとかルールを守るっていう部分で深井駅はあまり良くないと私も感じています。フラワーポットのところに腰掛けてタバコを吸っていると思うんですけど、そこの座りやすいところだけお花が潰れているんです。そういうことが前からありますね。

○竹井構成員 ちゃんと喫煙所は喫煙所として作っていただいて、その代わり路上喫煙を禁止する。そういうことをしていただいてもいいと思います。

○森田座長 それは、水賀池を整備しなかったとしても、今後やらないといけないことだと思うんですけど、整備もあるので、なおさらやっぱりちょっと気につけないといけないポイントなのかなという気は今お聞きして思いました。ありがとうございます。じゃあ、次は谷村さんはまだご発言ないですかね。なにかありますでしょうか。

○谷村構成員 そうですね。私も先ほど、竹井さんのお話を聞かせていただいて中区のシンボルである深井駅の景観が悪いというか暗いっていうことから、中区の治安が悪いっていうイメージが広がっているようなところもあると思うので、窓割れ理論じゃないですけども、タバコのところから始めていくのも一つかなと思う

いました。

あとは防犯、防災のところ、もう既にされているのかどうか分からないんですけど、警察署と消防署がすぐ近くにあるので、例えば、防犯防災体験見学ツアーみたいな形で、警察署で防犯のワンポイント講座を受けて警察署の中を見学して、その後、消防署の方も、火災がメインになると思うんですけど、ワンポイントアドバイスのことが聞けて、消防署内で訓練されているところを見ることができるといったイベントを通じて、意識を高められるのかなというふうに思いました。

その際に、実際中区で起きている犯罪を教えてもらえるとか、連れ去り事件であればよく目立ってわかると思うんですけども、もっと細かいこういうことがあったとか、あと火災についても、実際こういう原因で火災になったというのを伝えていただけるとより気をつけようかなという意識も高められるのかなと思いました。以上です。

○森田座長 はい、ありがとうございます。そうですね、タバコの問題は結構皆さんからご指摘があるようで、ちっちゃなことと思うかもしれませんが、重要なポイントなのかなと改めて思いました。次は、梶原さん、よかったらどうぞ。

○梶原構成員 はい、梶原です。私も中区に住んでいるんですけど、やっぱりゴミは多いです。特に水賀池の植え込みに思いきりゴミが突っ込まれていたとか、そういうのが多くて。水賀池が整備されてからもゴミが増えるのではと思っている部分もあるので、そこを先ほどの自治会のお話とも絡めて、地域の方が気軽に参加できるような、ゴミ拾いのイベントを開催するなど、短時間でも参加できるような、そういうきっかけづくりに活用できたらすごくいいんじゃないかと思いました。

○森田座長 それはちなみに、どんなゴミですか。

○梶原構成員 そうですね。もうビニールゴミとか、結構大きめのゴミもありますし。結構そこら中に一気に広がるタイミングがあるんですよね。多分一人が捨てるとそこから広がってみたいなことだと思うんですけど。

○森田座長 それはよろしくないですね。なるほど、そうですか。桂さんはなにかおっしゃいましたっけ。よかったらどうぞ。

○桂構成員 はい、私の事前意見としては安全と福祉について書かせていただいていたんですけど、先ほどからお話を聞かせていただいて、交流がすごく大切だと感じました。というのは、交流があると安全や福祉にもつながるというふうに感じたからです。でも一方で現実的にはその交流の部分で、自治会の加入者が減少しているということなんですよ。この交流分野の KPI で、地域行事や防犯防災の取組みが活発なまちだと思いますかっていう指標が増加しているということだったので、交流はうまくいってるという認識だったんですけども、その状況でこの数値がなぜ増加しているのかっていうことは考えなきゃいけないんじゃないかなと思いました。

それで、具体的にどうすれば交流が生まれるんだろうということを考えてみたんですけど、自治会活動について、先ほど小西さんがおっしゃったように、例えば、学校の入学式であったり、幼稚園の卒園式であったり、運動会だったり、保護者の方々が集まるところで PR する場を設けさせていただくことで、保護者も、周りの方と一緒に聞くことで、じゃあ一緒に参加してみようとか、そういったところにつながると思いますし、子どもがいる側ですので、子どもを守るために自分達が活動していかなくちゃいけないんだなというふうを考える場合もあるのかなと思いました。

もう一つ、わんわんパトロールについてなんですけど、例えば大学生の場合、お金も余裕もないですし、賃貸に住まれている方は基本的に犬を飼うこともできない状態だと思うので、参加するのが難しい。でも、犬に関わりたい大学生は多いと思うので、犬を飼っていないくても参加できるのであれば、参加してみようかみたいな大学生はいるのではないかと考えました。

○森田座長 ありがとうございます。猫カフェとかもあって、犬カフェもあるかもしれませんが、犬に関わりたいていう人はもちろんいると思うので、それはいいかもしれません。ちなみに、桂さんとしては、例えば自治会に自分が入るかもしれないなあっていうきっかけがあるとしたら、どんなことですかね。

○桂構成員 そうですね。やっぱり私も大学と家の往復みたいな生活になってしまっているので、例えば、私も朝、中百舌鳥小学校の前を通るときに、小学校前の横断歩道のところで地域の方が子どもたちを見守っているのを見て、やってくださっているな、ありがたいなと思うんですけども、一方でその方としゃべる機会はないので、やっぱりそういった地域のことに関わってくださっている方としゃべる機会を一つ持ちたいなっていうのは感じますね。

○森田座長 なるほど。やっぱり最初は会話的なコミュニケーションなんですかね。あとはさっきのお祭りでもいいですし、なにかのイベントでも結構ですし、そういうのをきっかけにして、とりあえずお話するところからっていうのが大事ですかね。

○桂構成員 例えばですけど、その小学校の見守りをしてくださっている方から、本当は大学生の方から挨拶すべきなのかもしれないですけども、その方々から登校中の大学生に挨拶するみたいなことがあるだけでも、一つ関わるきっかけにはなるのかなというふうに感じます。

○森田座長 それはそれでやっている方も、大学生にいきなり突然声かけたら、不審者と思われなかなと思って逆の立場からすると難しいのかなという気もしますが、なにかいいきっかけになるような、ちょっとしたコミュニケーションができるようなきっかけがあるといいのかなっていう気はしますね。ありがとうございます。だいたい発言は一巡したかと思いますが、まだ発言されてなかった方いらっしゃいましたか。大丈夫ですか。何回目でもいいんですけど、なにか今までのお話を聞いてご意見がある方は。

○太田構成員 先ほどタバコのポイ捨ての話があったんですけど、うちの子育てひろばも宮園の八田荘校区の方にあるんですけど、タバコの吸い殻がすごいんです。もう毎朝スタッフがタバコの掃除から始まってとい

った形で。水賀池公園でもね、ちょっと荒れていた時もあったんで、小学生、中学生、高校生が集まっていた、日々、どうやったらこれを減らせるんだろうか、怒ったところで効果はないだろうなと思っていたんですね。で、そのうち、子育てひろばがマンションの下にあって、初めはすごい勇気がいったんですけど、吸われている方にこれでもかっていうぐらい顔を見て挨拶する、おはようございますから始まって声をかけるというのをずっとやっただけですね。

ただ、それまで、私の前に出ていても、普通におじさんがタバコを吸った後、ポイってやっていたんですけど、だんだん挨拶していくうちに顔も覚えてくれて、「今日はいい天気ですね」みたいなやりとりする中で少なくなっただけですよ。やっぱり「あ、この方、掃除してくれているんだな」とか、私のことを認識してくれて、控えようかなって思ってくれたと思うので、実際やっぱり顔が見える関係性ができるのが大事なかなと思います。

でもまた捨てられなくなったら、逆に今度は「なんか体調悪いのかな、大丈夫かな。」とこっちも気になったりするんですけど。

叱って、怒って、「吸ったらあかん」というよりも、顔が見える関係性を作るほうが効果的なんだなと思った時に、水賀池公園がすごく綺麗になっても、やっぱりゴミとか、若い子たちが溜まってとかで汚されるんじゃないかっていう不安がすごく大きくて、それを防ごうと考えたときに、やっぱり若い世代の子たちとの顔が見える関係を作ったり、例えばその子たちが自分たちで公園を掃除する、花を植えるとか、そういう体験をすれば、ゴミを捨てたらいけないという意識というか、気づいてくれるきっかけになったらいいなとすごく感じています。

○森田座長 はい、ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思いますね。特に自分でゴミ拾いしてみると、こんなところにもゴミはあったんだとか、こんなものが捨てられているのかというのも、自分で気づくことにもなりますし。自分が綺麗にしたところは汚してはならないって思うんですよね。そういう体験をさせるんじゃなくて、自発的にできればしてもらえれば。

最初から自発的と言っても難しいかもしれないので、ちょっと強制力が入るかもしれませんが、1回やってみるという体験はとても重要なかなと思います。その1回目をまずやってもらうのをどうやってしてもらうかを、なにかイベントを考えないといけないですね。ゴミぐらいとかタバコぐらいって思うかもしれませんが、やっぱりそこがすべての基本だし。

あとはおっしゃったように挨拶ですよ。挨拶できない人って世の中結構たくさんいるんですけど、今、やっぱりそれができないってところから、問題が発生してるっていうのは確かにおっしゃるとおりで、じゃあ挨拶運動するのかって話じゃないんですけど、どうしたらいいのかっていうのはなかなか難しいかもしれませんが、なにかそういう挨拶ができる状況を作るところを、とりあえずは声かけるところから、そういうちっちゃなところから街を良くしていこうっていう取組みは、非常に地味かもしれませんが、とても重要なポイントだなと今日いろいろ聞いていて思いましたね。

なにか、それに対してでも、他の点でもいいんですけど付け加える点はございませんか。はい、どうぞ。

○山口構成員 まとめにはそぐわなくて、感想みたいになってしまうんですけど、今の防犯のお話を伺っている中で、もちろん犯罪はしちゃダメなんですけど、しちゃダメって言うても減らないというのが大学で福祉を学んでいる中で感じていたことで、絶対に犯罪はダメなんですけど、それをしないと生きられない人たちが、生きていく手段の中に犯罪が入ってしまっている人もやっぱりいると思います。そういった方に対して、しちゃダメしちゃダメって言うても多分減らせないので、そういう時に先ほどのお話で、なぜ犯罪が増えたか、なぜ

防犯意識が下がったかとか、この結果と原因のつながりを資料から読み解くのが難しいというお話もあったと思うんですけど、なんで犯罪をしちゃうかっていうバックグラウンドを把握して、それに見合った解決策、少年犯罪だったらこども食堂につながる道を案内しようとか、窃盗しちゃう方だったら、生活に困ってる理由を伺う場を設けたりとか、そういうのも広い意味で防犯になるのかなっていうのを今回の会議で皆さんの意見を伺って思いました。

○森田座長 そうですね。やっぱりそういう意識がとても重要なのかなっていう気はしますね。なにか、他に同じようなことでも結構なんですけど、重要なと思うようなポイントがあれば、はい、どうぞ。

○澤本構成員 今日、若い方の話を聞いていて感じたんですけど、私の住んでいる校区にどれくらいの学生が住んでいるかはわからないんですけども、自治会の活動などをお知らせすると関わりやすいってことを教えていただいたので、一人で住んでいらっしゃる小さなマンションとか、ご家族で住んでいらっしゃる自治会に入っていないご家庭にも自治会のことや地域の活動などをもっとお知らせした方がいいのかなと思いました。そこでもし気になるお祭りとかがあったら、学生さんが声をかけてくださったらそのサポートもしてもらえるのかなと思ったりしましたので、今日とってもいいお話が聞けたなと私は今感じています。

○森田座長 なるほどなるほど。そういうふうに思っていただければよかったかなと思います。もうだいぶ終盤ですけど、何か言い忘れたことがある方いらっしゃいますか。はい、どうぞ。

○太田構成員 すいません、一つだけ、中区役所の地下に子育て広場があるんですけども、エレベーターを降りたところに自動販売機があるんです。今日の議題からは外れているかもしれないんですけど、若い世代のお母さん達の間で、その隣におむつの自動販売機があったら便利かなという話がありまして。災害時にも役に立ちますし、ちょっとうっかりおむつを忘れてきたという方とか、結構いらっしゃいますので、役所の中や、街の中は設置が難しいのかもしれないんですけど、小さいことから防災のときにも使えることを知ってもらうっていう意味でも、考えてもらえると嬉しいなと思っています。

○今西構成員 もし知っていたら教えていただきたいんですけど、さっきの集客とか周知のところで、大学の前のラーメン屋さんがものすごい数の人がいつも並んでいて、あれはどうしてあんなに人が行くのか、単に美味しいだけじゃないんじゃないかなと思っていて、どうやったらあんなに集客できるのかなっていうのを聞いたら何かヒントになるんじゃないかと思っています。

○森田座長 学生が単に好きだからじゃないですか。1 回入られてみたらわかると思うんですけど、例えば麺とか上の野菜の量がすごいとか、そういう系統のラーメンがあるんですけど、それと味が好きな学生は多分行くのかなと思います。

○田重田構成員 もう最後なので感想みたいな話をするんですけど、防災のイベントでどうやったら人に来

てもらえるかみたいな話の中で、防災だけでイベントをすると、それに関心がある人は来るけども、そうじゃないと行こうってならないので、例えば嫌でも人が集まってくる祭りとかの時に別のものを設えとかですね、なにかのついでにやるっていうのはすごくいいんじゃないかなって思います。私は南区でこども食堂やこどもの居場所づくりをやっているんですけど、そこで何ヶ月かに 1 回、防災のイベントをやるんです。つい先週にも、こどもたちに新聞紙でスリッパを作ってみようという、折り紙みたいにスリッパを作って、それをした後は、最後に防災食を食べて、終了後、フードパントリーとしてお水とか防災食とかをセットにしたものを持って帰ってもらうイベントをしました。防災とか防犯とかのテーマはなかなかそれだけで人を集めにくいので、なにかのついでで遊び仕立てでやるのがいいと思いました。

あとは、虐待の話についても、やっぱり人とのつながりが重要で、周りに相談できる人が少しでもあれば、虐待につながらなかったというケースもあるんじゃないかなと思います。南区でこども食堂をやっている、お母さんたちと関わっていると、通報しないといけない案件もあるんですけど、自分たちだけで話している間に解決できるようなこともいっぱいあるので、コミュニティづくりがやっぱり必要なのかなと思います。

また、自治会の加入率がもう 1 割しかないみたいなのところもあるって話を聞いて。もうそれって入る仕組みになっていないんですね。だからいっそ若い人でも入りたくなるような新しいコミュニティを作った方がいいんじゃないかなと思ったりもします。

大学で堺に来て一人暮らししている学生が、自治会という名前のコミュニティに入ろうというイメージが湧きにくいんじゃないかなと思うので、もう少し地域コミュニティとして若い人でも参加しやすいような名前とか、イベントを年間行事の中に入れて、入りやすいような仕組みっていうのを作っていく。根本的に考え方を変えていく必要があるんじゃないかなって思いました。

○森田座長 なるほど、ありがとうございます。ちょっと過激な発言ではありますが、いろいろ考えなければならぬことはあるのかなと。ちなみにその非常食の試食会は、こどもたちは喜んでますか。

○田重田構成員 そうですね、喜ぶ子も喜ばない子もいますけど、やっぱり珍しいので最初は喜びます。でも、2 回目は食べないです。防災食を食べてみるっていうのは、いざ災害があった時にだけ食べると、やっぱりなにか普段の味と違って食べ慣れてないから食べられないんですね。

だから普段から、ちょっとずつ混ぜて食べてみることで、知っている味にしておいて、いざそれを食べないといけなくなった時に抵抗なく食べてもらえるという仕組みです。

○森田座長 そういうことですか。松居さん、大学の非常食で期限が切れそうになったものが我々に配られますけど、それってこういうイベントに活用したりできないですかね。我々に配ったところでどうしようもないですもんね。喜ばないかもしれないけど、こどもに食べてみてもらうことで期限が切れる前に使えたらいいのかなと思いました。

そろそろ時間なんですけど、何か最後言い残したことがある方いらっしゃいましたら。よろしいですか。

それでは本日は構成員の皆様から、いろいろ活発なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。事務局におかれましては、構成員の皆様からいただいた様々なご意見を、今後の区政運営に活かしていただきますよう、お願い申し上げます。これで本日の議題はすべて終了いたしました。本日の議題、あるいはそれ以外でも何かご意見、ご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。

議案内容に対する意見や何か不明な点がありましたら、遠慮なく事務局まで申し出ていただきたいと思います。それでは司会をお返ししたいと思います。

○司会（川元） 皆様、活発なご意見の交換、ご提案ありがとうございました。

閉会にあたりまして、中区長よりご挨拶を申し上げます。

○中区長（影山） みなさん、本日は遅くまで、活発なご意見ありがとうございました。今後の計画の改定に向けたヒントとなるような貴重な意見を多数いただけたと思っております。

冒頭でも申し上げましたように、現在の中区地域計画は、令和 7 年度が最終年度となりますので、まずは現計画の成果指標の達成に向けて全力を尽くしてまいりたいとともに、今日いただきましたご意見に対する私どもの取組みや考え方などについて今後、皆様にご説明をしながら、そして引き続き、この会議で皆さんとの意見交換を続けながら、中区が挑戦し続けられる計画になるように改定してまいりたいと思いますので、皆さんご協力のほどよろしくお願い致します。本日は本当に遅くまでありがとうございました。

○司会（川元） 最後に 1 点、報告させていただきたいと思います。令和 5 年度の政策会議で「誰もが安心して子育てできるような中区をめざして」ということで、ご意見いただいた中の区役所内への授乳スペースの設置について、今年度予算をとって進めており、ちょっと設置が遅くなってしまったんですけども、年度内に、1 階市税の窓口前の通路付近に設置予定となりますことをご報告いたします。

それでは以上をもちまして、令和 6 年度第 2 回堺市中区政策会議を閉会させていただきます。構成員の皆様におかれましては、会議の開催にあたり、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。